



## 空梅雨のち大雨！



今年は、沖縄・奄美で5月6日に平年より早い梅雨入りとなりました。ただ、九州から東北にかけての梅雨入りは平年よりも遅め。梅雨入りしても6月中は空梅雨気味ですが、7月に入ると大雨が多発し、梅雨明けは遅れる所が多くなりそうです。

## 梅雨入り・梅雨明け2010

地方	梅雨入り		梅雨明け
	予想・速報値※1	平年比	平年比
沖縄	5月6日(速報値)	早	並
奄美	5月6日(速報値)	早	並
九州南部	6月中旬	かなり遅	遅
九州北部	6月中旬	かなり遅	遅
四国	6月中旬	かなり遅	遅
中国	6月中旬	かなり遅	遅
近畿	6月中旬	かなり遅	遅
東海	6月中旬	遅	遅
関東甲信	6月中旬	遅	遅
北陸	6月下旬	遅	遅
東北南部	6月下旬	遅	遅orなし
東北北部	6月下旬	遅	遅orなし

※1 速報値…気象庁では「梅雨入り・梅雨明け」をまず速報値として発表し、後日、実際の天候経過を検討して確定日を発表しています。

地域	降水量※2		気温※2		
	6月	7月	6月	7月	
沖縄・奄美	並	少	高	高	
西日本	太平洋側	多	並or多	並	低
	日本海側	並	並or多	高	低
東日本	太平洋側	少	並or多	高	低
	日本海側	少	並or多	高	低
北日本	太平洋側	少	並or多	並	低
	日本海側	少	並or多	並	低

※2 降水量・気温は、気象庁の1ヶ月および3ヶ月予報をもとに、確率の高い階級を表示しています。

## 北日本冷夏!? 2年連続梅雨明けなし!?

2010年の梅雨前線は活動開始がいつもの年より遅め。今週末以降は、九州から関東で順次、梅雨入りしますが、東北や北陸の雨は続かず、梅雨入りは6月下旬になる可能性も。

前線の影響が北まで及びにくいことから、6月中は、西日本の太平洋側で雨の量が多くなるものの、東・北日本は少雨傾向です。ところが7月に入ると前線は、活発なまま本州付近に停滞し続ける予想。東・西日本は集中豪雨が多発する心配があり、各地で梅雨明けが遅れそうです。

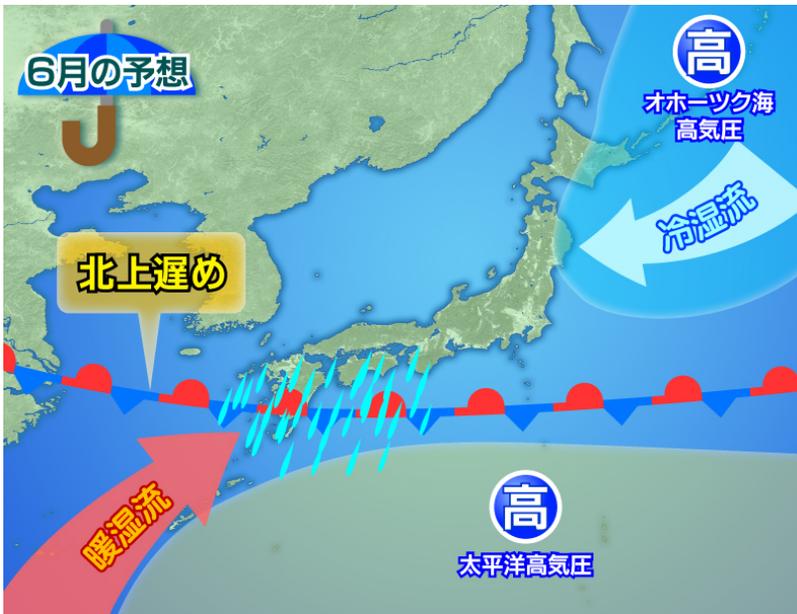
東北地方では、8月に入っても前線の影響を受けやすく、梅雨明けが発表されないかもしれません。もしそうなれば、統計史上初めて2年連続で「梅雨明けなし」ということに！

また、気温は、6月は全般に平年並か高めですが、7月は北日本ほど低温傾向に。

# 梅雨期間の天候を決める2つの高気圧

梅雨の期間の天候を決めるのは、主に北の冷涼な「オホーツク海高気圧」と南の暑い「太平洋高気圧」。梅雨前線はこれら2つの温度の違う高気圧の間にあり、高気圧の強さなどによって動きも左右されます。今年のポイントは『太平洋高気圧の北への張り出しが弱い』こと。この影響で、梅雨前線は本州付近に長く停滞し続けそうです。

## 6月の梅雨前線「始動遅く、北・東日本は少雨傾向」

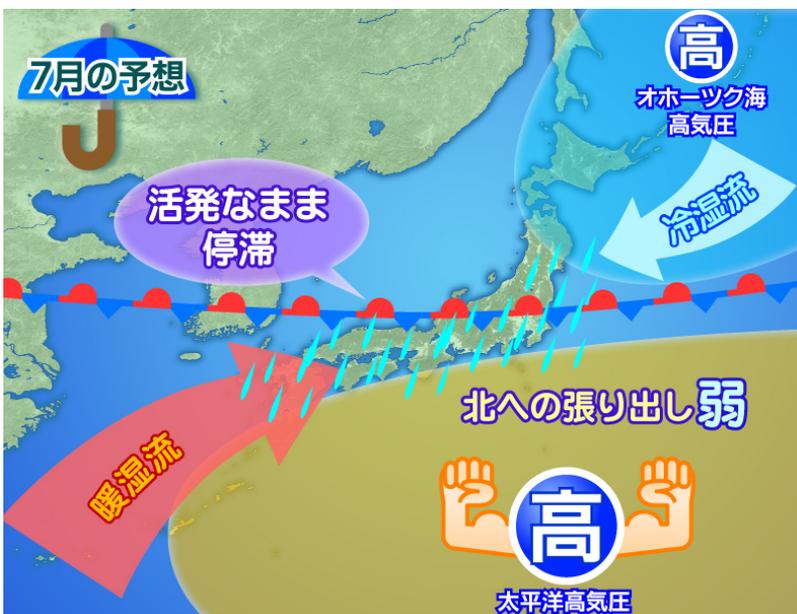


太平洋高気圧は、ようやく梅雨前線を本州へと押し上げます。ただし、北への張り出しは弱め。今週末以降は、九州から関東にかけて、順次梅雨入りするものの、北陸・東北の梅雨入りは下旬に。

西日本の太平洋側は雨量が多くなりますが、前線の影響が北へ及びにくく、東・北日本は少雨傾向です。また、オホーツク海高気圧や寒気の影響で、北日本は、気温の変動が大きくなりそう。

一方、沖縄・奄美は下旬から太平洋高気圧に覆われ、いよいよ梅雨明け。暑い夏の到来です。

## 7月の梅雨前線「活発なまま停滞し長梅雨に」

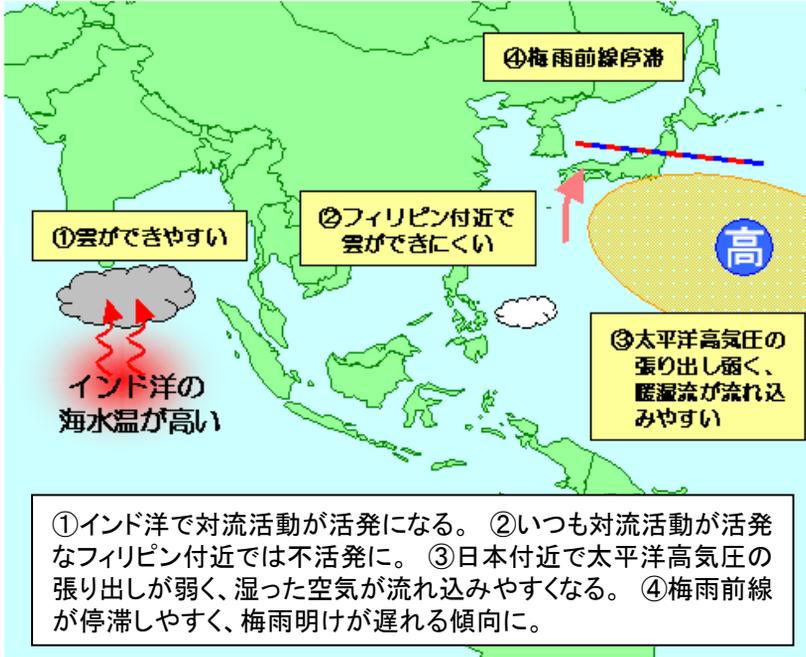


太平洋高気圧の強まりとともに、梅雨前線は本州付近に停滞。暖かく湿った空気が流れ込み、前線活動は活発に。東・西日本を中心に集中豪雨が多発するおそれがあります。また、本来下旬になれば夏空をもたらすはずの太平洋高気圧は踏ん張りが今ひとつ。前線は下旬まで停滞し各地で梅雨が長引いてしまいそう。東・西日本では雨量が平年より多くなりそうです。北日本はオホーツク海高気圧の影響で「やませ(冷たい北東風)」が吹き、低温傾向。太平洋側ほど農作物の冷害が心配です。

# なぜ長梅雨？「インド洋」と「1998年」

太平洋高気圧が北へ張り出せない原因は、遠く離れたインド洋にあります。2010年の梅雨～夏は、インド洋の影響が強く出そうです。また、今年と同じように、過去インド洋の影響を受けた年がありました。類似年からも長梅雨の原因を探ります。

## 原因は遠く離れた「インド洋」！

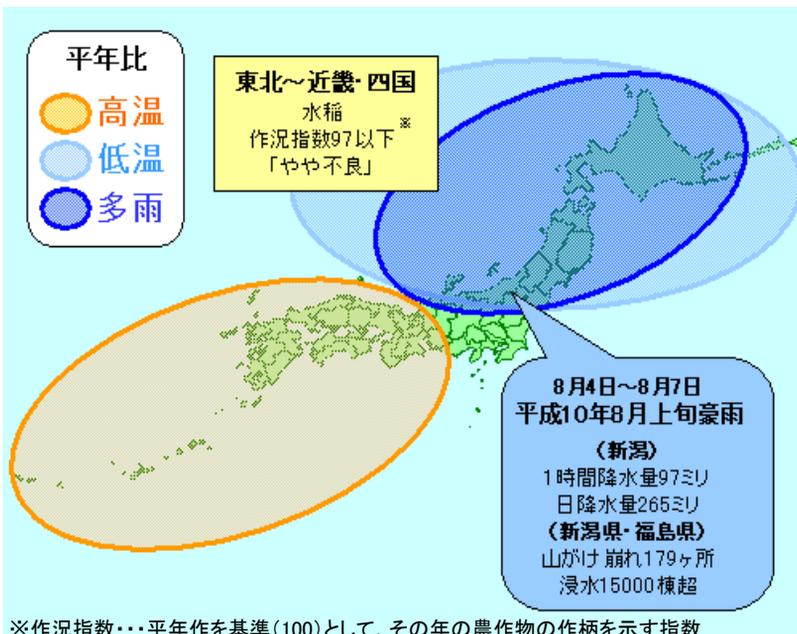


現在、インド洋の海面水温が高く、夏にかけて高い状態が続くと予測されています。

インド洋の海水温が高いと、ドミノ倒しのように右図の①～④が起これ、各地で梅雨明けが遅れ、さらには沖縄・奄美を除いて冷夏になる傾向があります。

また、2009年から太平洋で起きていたエルニーニョ現象は、間もなく終息すると予想されます。エルニーニョ終息後初めての夏は、上記のようなインド洋の高温の影響がより出やすい傾向があり、長梅雨や北日本の冷夏の可能性は高いと考えられます。

## そっくり？長梅雨・冷夏だった1998年



過去、今年と同じようにエルニーニョが春に終息後、インド洋の海水温が高い状態が続いた年がありました。それは1998年。この年は、梅雨入りがほぼ全国的に早かったものの、梅雨明けは全国的にかなり遅く、北陸と東北は梅雨明けがありませんでした。

北日本ほど低温傾向で、農業や商業への影響も大きく、不況に追い討ちをかけました。

また、8月になっても活発な前線が停滞したため、東北地方や新潟県では、記録的な豪雨災害が起こりました。



# 梅雨の低温で家計も冷える!?



今年は、九州から東北にかけて梅雨明けが遅れる可能性があり、7月は、長雨による日照不足や低温が予想されます。このため、夏野菜やお米など、農作物に影響が出るおそれがあり、家計への打撃が心配です。

今回は、過去の夏の天候と農作物への影響を振り返ることで、今年の傾向を探ります。

## 野菜の収穫を左右する夏の天候

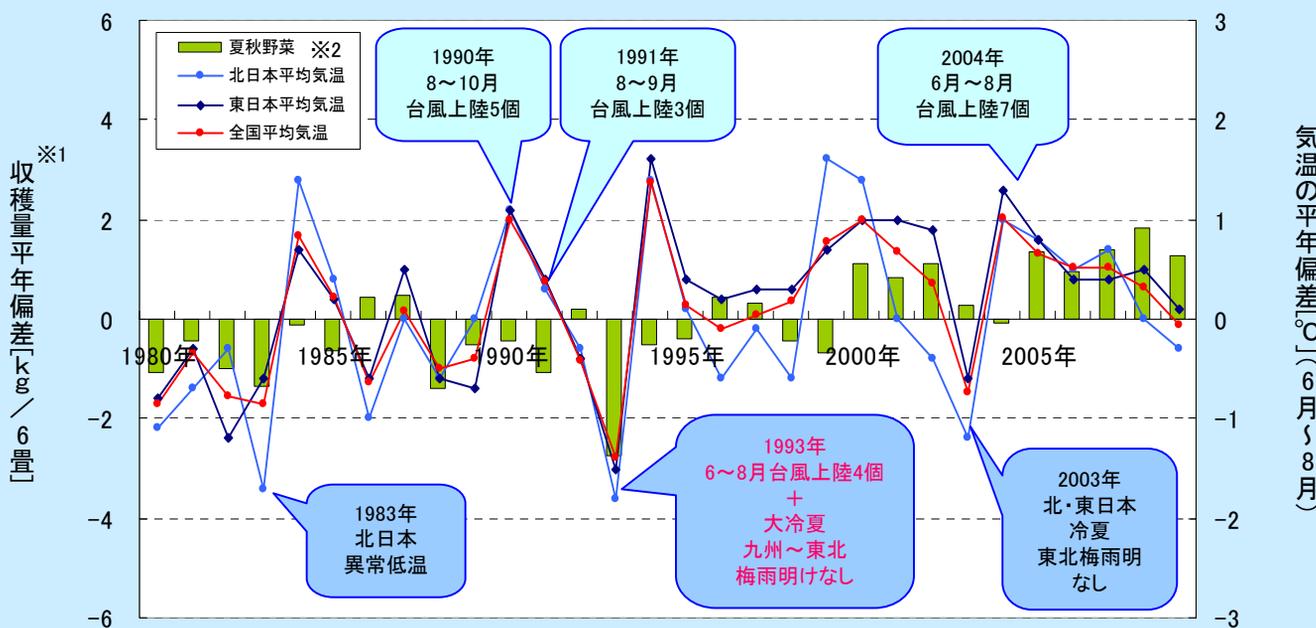


図1 夏秋野菜の収穫量と夏の気温の関係

※1 年間偏差...1980年から2009年までの平均からの差

※2 夏秋野菜...主たる収穫・出荷期間が夏から秋(7月~10月(11月))に区分されるもの

## 夏秋野菜に影響する「長雨」「低温」「台風」

梅雨が長引くと、低温と日照不足になり、夏から秋に収穫される野菜など、農作物の育ちが悪くなります。このため、夏秋野菜の収穫量が減少して、供給が不安定になり、価格が上がります。特に、夏秋野菜は、全体の量の80%前後を北日本と東日本で収穫していることから、北日本と東日本の気温は重要です。

また、夏といえば台風シーズン。気温が高く、農作物の成長が良い場合でも、台風の上陸が多い場合は、大きな被害が出ます。例えば、2004年の夏は全国的に高温になったにもかかわらず、6月から8月の3か月間に台風の上陸数が7個という記録的な多さで、農地が大きな被害を受け、収穫量は少なめでした。また、大冷夏になった1993年は、「長雨」・「低温」・「台風」の三拍子がそろい、1年間の農業被害額は1兆3,477億円にのぼりました。

# 米どころを脅かす夏の天候

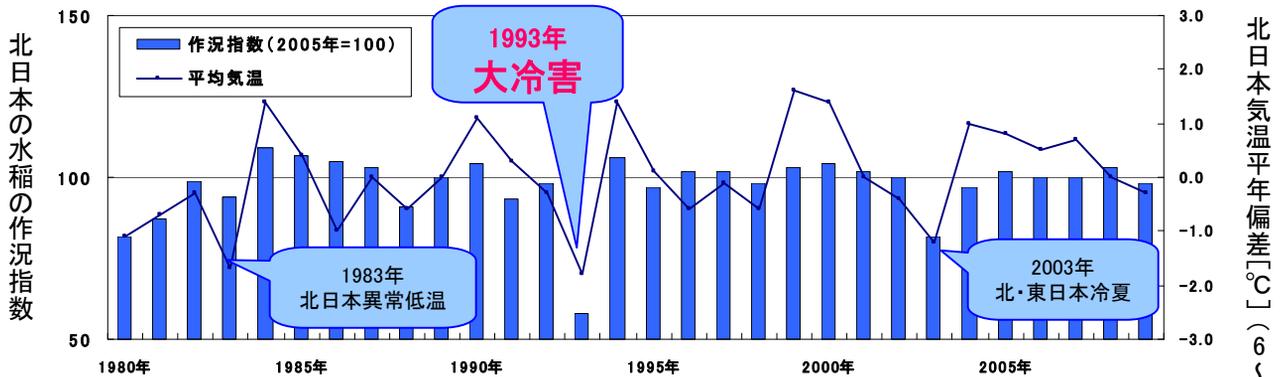


図2 北日本の水稲の作況指数と夏の気温の関係

## 豊作？ 不作？ 注目は「やませ」

日本の米どころ、北日本は、低温をもたらすオホーツク海高気圧の影響を受けやすく、とくに東北地方の太平洋側では、冷たく湿った北東の風「やませ」が吹き続けると、水稲の被害が深刻化します。1993年の大冷害によって起きた「平成の米騒動」では、青森、岩手、宮城の被害が全国の中でもとくに大きく、まったく収穫できない地域もありました。それから10年ぶりの冷害と言われた2003年も、1993年ほどではありませんでしたが、北日本中心に、深刻な凶作となりました。

## この夏の野菜価格は？ 類似年から読み解く！

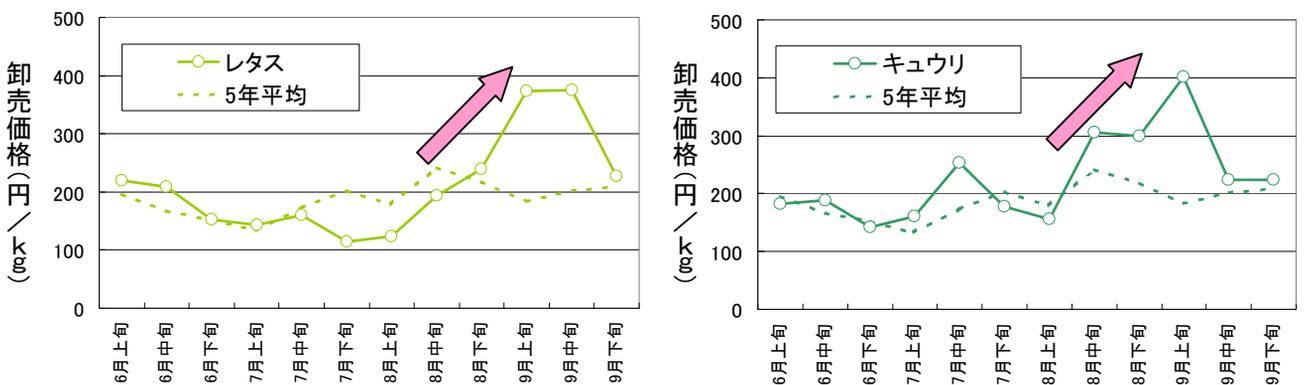


図3 1998年卸売価格(東京都中央卸売市場)

## 9月頃から野菜の価格が高騰？！

第1回で類似年として挙げた1998年の夏は、台風の影響こそなかったものの、全国的な「長雨」や北日本の「低温」、8月の集中豪雨の多発などにより、農作物が大きな被害を受けました。8月の中旬からは野菜が品薄になり、価格が高騰。9月上旬にはキュウリとレタスの価格はおよそ2倍になりました(図3)。米の作柄は、「やませ」の影響を受けた東北地方のみならず、近畿・四国にかけての広い範囲で「やや不良」に。

今年も同じような影響が心配され、さらに台風が上陸すると、打撃は大きくなるかもしれません。



## 夜の雷は大雨の兆し！？



今年の梅雨は、いつもの年以上に、集中豪雨の多発が心配されます。「夜の雷は大雨の兆し」という諺があり、梅雨前線による集中豪雨は、深夜から強まって、明け方にピークを迎える傾向があり、逃げ遅れや、対応の遅れにより、被害が大きくなることも。

今回は、過去の集中豪雨による災害を振り返り、豪雨の時間的な特徴を解説します。

## 明け方にピークを迎える集中豪雨

### 梅雨前線による豪雨には特徴アリ？

表1 過去の集中豪雨と雨のピーク時間

過去10年間の梅雨前線による大雨	都道府県	地点	雨のピーク時間	最大1時間降水量(mm)
平成13年7月11日～13日	高知	安芸	1時	74
平成15年7月18日～21日	福岡	大宰府	4時50分	104
平成16年7月新潟・福島豪雨(7月12日～7月14日)	新潟	守門岳	9時50分	63
平成16年7月福井豪雨(7月17日～18日)	福井	美山	6時10分	96
平成17年6月28日	新潟	川谷	7時30分	45
平成17年7月1日～7月6日	熊本	田浦	1時50分	100
平成17年7月8日～7月10日	熊本	南小国	3時30分	98
平成18年7月豪雨(7月15日～7月24日)	宮崎	えびの	20時00分	92
平成18年6月21日～6月28日	熊本	益城	6時10分	114
平成21年7月中国・九州北部豪雨(7月19日～7月26日)	福岡	博多	19時25分	116

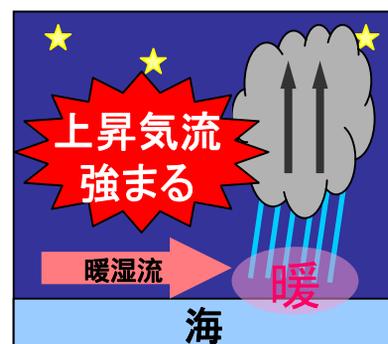
梅雨前線による集中豪雨は、夜から明け方にピークを迎えやすいという傾向があります(表1)。その主な原因は、「暖湿流」と「放射冷却」です。夏の夕立は、夜になって地上が冷えるとおさまりますが、暖湿流が続く場合は、夜になっても地上が暖かいまです。一方、上空の雲頂付近では、放射冷却により、明け方にかけて空気が冷えてゆきます。このため、大気の状態が不安定になり、雨雲が発達。特に海の場合、夜は陸地よりも暖かいため、より不安定で雨雲が発達しやすくなります。海から発達した雨雲が流れ込みやすい沿岸部では、明け方にかけて、大規模な集中豪雨が起きることがあるのです。



①放射冷却で雲頂の熱が逃げる



②上空の空気が冷えて不安定に



③上昇気流が強まり雨雲が発達

図1 明け方に雨雲が発達するメカニズム

# 平成16年7月新潟・福島豪雨で検証

## 明け方に海上で雨雲発達！

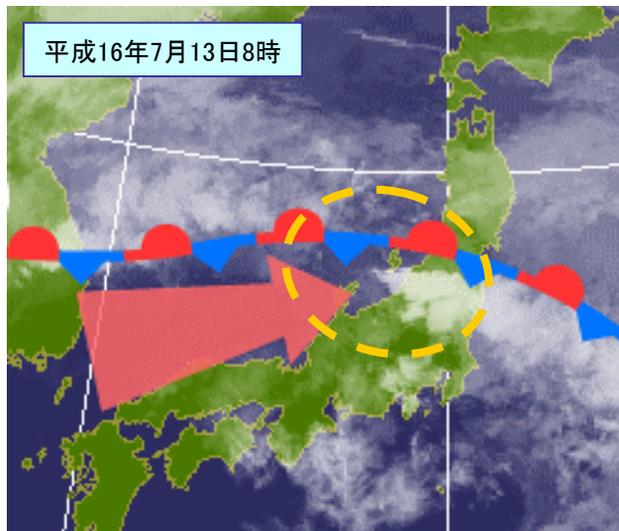


図2 平成16年7月新潟・福島豪雨の雲の様子

平成16年7月新潟・福島豪雨でも、夜から明け方にかけて、日本海で発達する雨雲が見られました(図2・右)。

この集中豪雨は、7月12日の夜から13日にかけて、日本海から東北南部にのびる梅雨前線に向かって流れ込んだ、暖かく湿った空気が原因です。明け方頃には、放射冷却が加わり、佐渡島の南で雨雲が発達のピークを迎えました。この雨雲が13日朝から昼頃にかけて、新潟県中越地方や福島県会津地方に次々と流入し、非常に激しい雨を降らせたのです(☁)の範囲内)。

降り始めからの総雨量は、新潟県栃尾市が427mm、加茂市宮寄上で324mm、福島県只見町で333mmを観測するなど記録的な大雨となりました。新潟県では川の堤防決壊が相次ぎ、床上浸水12466戸、床下浸水13936戸などと、大きな被害を出しました。

## 梅雨ズバリ解説掲載場所

梅雨ズバリ解説は、LBWのサイト「みんなの天気予報」内で、2010年6月7日から提供を開始しています。

みんなの天気予報 ☁

<http://tenki.lbw.jp/> 6月7日～提供開始

## お問い合わせ先

株式会社ライフビジネスウェザー  
営業部 (リリースについて) TEL:03-3668-6142 E-Mail:ishii-n@lbw.jp  
気象予報部 (予想について) TEL:03-3668-6143 FAX03-3668-6145  
画像をご使用の際はコピーライト表記  
©Life & Business Weather Inc.





## 梅雨前線、いつまで活発？

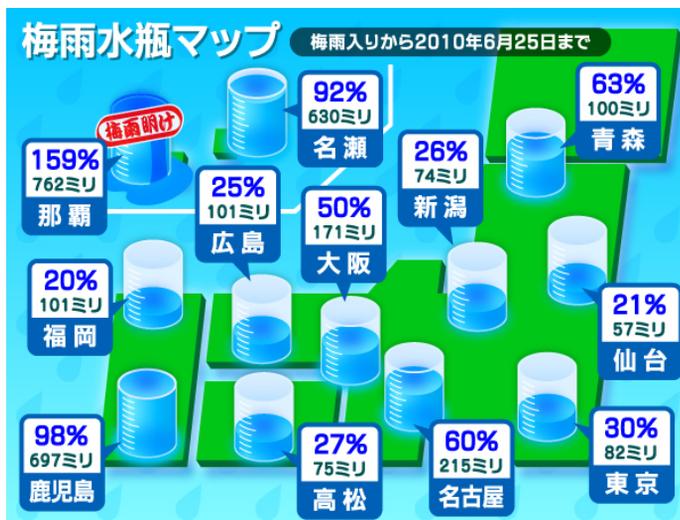


6月12日から6月16日にかけては、西から次々に梅雨入り。今年は梅雨入り後すぐに梅雨前線が活発化し、九州南部で記録的な大雨となりました。

今回は、梅雨入りしてからの雨の特徴を振り返り、九州南部の集中豪雨の原因と、7月の梅雨前線の動向、8月の天候を解説します。

## 梅雨入り後すぐの集中豪雨、その原因は？

### たった2週間で、平年の梅雨期間の雨量に



九州南部では17日から雨が降り続き、鹿児島県八重山では、降り始めから23日までの雨量が782.5ミリと、わずか1週間で6月の月間雨量の記録を超える大雨となりました。

梅雨入りしてから25日までの、各都市の雨量を見てみると、鹿児島は12日の梅雨入りからたった2週間で、すでに平年の梅雨期間の雨量の98%に達しています。一方、同じ九州でも福岡は20%など、梅雨前線の雨は、極端に偏って降っていることがわかります。

主な原因の一つは、梅雨前線が九州南部に停滞し続けたこと。北から南下する寒気と、北上の弱い太平洋高気圧にはさまれ、前線が動けない状況が長く続きました。

二つ目は、太平洋高気圧が平年よりも西へ強く張り出していたこと。梅雨末期のような暖かく湿った空気が、前線に向かって西から流れ込み続けたため、中国大陸南部から東シナ海で前線の活動が活発になりました。この期間は、九州南部で集中豪雨となったほか、中国南部のフーチエン(福建)省などでも、甚大な豪雨災害が起きました。



# この先も梅雨前線は活発

## 太平洋高気圧の勢力に注目！



6月末の梅雨前線は、太平洋高気圧の強まりとともに日本海まで北上し、日本海側を中心に大雨を降らせました。

このあと7月上旬にかけては、太平洋高気圧が徐々に後退するため、梅雨前線は本州付近に南下。一時的に活動が弱まり、梅雨の晴れ間が期待できますが、またすぐ活発になり、西日本太平洋側を中心に、大雨が降りやすくなりそうです。



7月中旬から下旬にかけては、太平洋高気圧が強まるため、梅雨前線は再び北上。ただ、梅雨明けさせるほどの強さはなく、梅雨前線は日本海付近で停滞する予想。日本海側を中心に梅雨末期の集中豪雨が多く起きる可能性も。梅雨明けは各地で平年より遅れ、夏休みが始まる頃になっても、各地でくもりや雨の天気が続くそう。また、オホーツク海高気圧が発生する可能性もあり、北日本の太平洋側を中心に気温の低くなる日があるかもしれません。

## 8月になっても梅雨前線しぶとく

### 北と南で対照的な夏

地域	気温	降水量	傾向のポイント
沖縄・奄美	高	少	安定した夏空続き、少雨傾向
西日本	並or高	並	夏空広がり厳しい暑さに
東日本	高	多	暖湿流で蒸し暑く、局地豪雨多発！？
北日本	低or並	並or多	梅雨が長引き冷夏気味

8月も、夏の太平洋高気圧は、北への張り出しはあまり強くないものの、西への張り出しは強め。このため沖縄・奄美や西日本では、夏空が広がり厳しい暑さ。西日本は雷雨になる日もありますが、沖縄はカラカラ天気が続くそう。一方、北日本はしぶとい梅雨前線の影響で、くもりや雨の日が多くなり、上空の寒気の影響もあって低温傾向。暖かく湿った空気が流れ込みやすい東日本は、蒸し暑く、晴れても安定しない天気で、局地的な豪雨が起きやすい夏になりそうです。



## 今年の梅雨～夏に売れる商品は？



日本には四季があり、それぞれ売れるものが違います。特に、気温が上がる「夏」と気温が下がる「冬」が顕著ですね。例として、前者はビール、エアコンなど、後者は鍋もの、コートなどが挙げられます。そういった季節によって売れ行きが変わる商品を、一年間を通して売れる「通年商品」と区別して「季節商品」と呼びます。

7月5日現在、今年の梅雨は長引く予想で、この夏の「季節商品」の売れ行きに大きな影響を与える可能性があります。今回の「梅雨ズバリ解説」は、予想される天候をもとに、向こう一ヶ月にどんな商品が売れやすくなるのか、どんな商品が伸び悩みそうなのか、「季節商品」中心に傾向を解説します。

### 梅雨～夏に季節商品が売れるには

#### 早い「夏の到来」が重要

梅雨から夏にかけて、「季節商品」にとって良い天候推移の条件は二つあります。一つ目は早く梅雨が明け、二つ目は早く暑くなることです。

つまり「季節商品」だけあって、「早く夏らしくなる」ということが重要なのです。今年の夏は暑いんだと、できるだけ早く実感させることが、買い手の購入意欲を後押しするのですね。

エアコンを例にとると、8月より7月に暑くなるほうが、販売に追い風になるということが、統計的に分かっています。



梅雨が早く明けて暑くなれば  
季節商品の売上が伸長

### 今年の梅雨～夏の天候は？

#### 北日本で不順な夏になるおそれ

予想されている今年の梅雨後半から夏にかけての天候は右の通りです。今年は全国的に「早く夏らしくなる」というのはあまり期待できません。

「西日本と東日本」は、気温は高めですが、天気はくもりや雨の日が多く、なかなかすっきりとは晴れない可能性があります。日照不足により、「季節商品」の売れ行きが鈍るかもしれません。

「北日本」は、日照時間が少ない予想に加えて、気温が上がらないおそれがあります。「季節商品」の販売にとって天候は不利に働きそうです。販売者は、積極的な対策を講じておいたほうがいいかもしれません。

#### 2010年梅雨～夏の天候予想

(7月5日現在)

##### 梅雨明け

**全般に遅め。東北では発表されないかも。**(気象庁は、立秋を目安に梅雨明けを特定しないことがある)

##### 雨量

**全般に多く、局地的な大雨も。**

##### 気温

**北で涼しく西で暑い、「北冷西暑」型。**

# 予想される商品販売の傾向

予想される天候から、今年の梅雨後半から夏にかけて、平年と比べてどんな商品販売傾向になるのか、20品目についてまとめました。

	品目	西日本	東日本	北日本	ひと言解説
食物	冷やし麺	↑	↑	↓	ざるそば、ひやむぎなどの「冷やし麺」は、暑さに比例して売れる代表的な季節商品。
	カレー	↑	↑	↔	カレーは猛暑で需要が高まる。「汗をかいて暑さをふきとばす」以外に「夏バテ防止の意図」も。
	カップ麺・スープ	↓	↓	↑	気温があまり上がらず、体感的にいつもの年より涼しく感じられると、夏にもかかわらず伸長する。
	味噌汁	↓	↓	↑	暑いと避けられがちな超定番商品も、涼しければ、ご飯と同様にニーズが維持される。
飲料	ビール	↑	↑	↓	「冷やし麺」と同じく、暑さに比例して売れる代表的な商品。くもりや雨より晴れるほうが伸長する。
	野菜ジュース	↓	↓	↑	暑いと、野菜ジュースより、さっぱりしたミネラルウォーターやお茶のニーズが高まる。
	栄養ドリンク	↑	↑	↔	猛暑だと、夏バテ防止や体調不良を解消するためにニーズが高まる。手軽で冷たい飲料なのも夏には吉。
衣料	夏物衣料	↑	↑	↓	「夏物」というだけあって、暑さが消費を後押しする商品。サンダル・日傘・サングラスも類似。
	水着	↔	↔	↓	日差し、暑さ、タイミングが重要な商品。ベストなのは平年より梅雨が早く明け、夏空が続くことだが…。
	長袖のパジャマ	↑	↑	↓	意外に感じるかもしれないが、寝苦しい夜に、冷房をつけて寝るため、平年より伸長。
家電	エアコン	↑	↑	↓	冷やし麺やビールと同様に暑さ比例商品。特に7月に暑くなることが重要。
	除湿機・乾燥機	↑	↑	↑	「雨物」と言われる商品群。東・西日本は除湿機、乾燥機は北日本で伸長。
	脱毛器具	↑	↑	↓	脱毛器具は、蒸し暑さで、薄着で出かける機会が増えると伸長。晴ればさらに伸びる。
レジャー	屋外テーマパーク	↔	↔	↓	雨が多く降ってもだめだが、暑い中、長時間待つのも忌避される。くもり空が意外に好調。
	屋内テーマパーク・映画	↑	↑	↑	不順な天候を避けるため、特に東・西日本は涼を得るためにも、支持される。もちろんヒット作にもよるが。
	温泉	↓	↓	↑	温泉ニーズは、気温が平年より低いと高まる。冷夏特需が特に起こりやすいレジャー。
	レンタルDVD	↑	↑	↑	レンタルDVD観賞は、天候不順や猛暑を避けて余暇を過ごすにはもってこい。
生活	野菜価格	↑	↑	↑	野菜は、長雨や日照不足はもちろんだが、猛暑でも生育が悪化し、価格が高騰する。
	豚肉・鶏卵・生乳価格	↑	↑	↔	豚・鶏・牛の育成にとって、暑さはマイナス。猛暑になると関連商品は出荷が遅れ、品薄になるおそれがある。
	電力需要	↑	↑	↓	暑いほど、エアコンのニーズが高まるように、エアコンで消費する電力も必要になる。

 高調
  低調
  普通

西日本は近畿・中国・四国・九州 東日本は関東甲信・北陸・東海 北日本は北海道・東北  
 今年の天候予想と過去15年間の商品販売データをもとに独自で算出  
 あくまで傾向であり、実際の商品の売り上げなどを意味しない



## 奄美 記録に残る梅雨に！



7月になっても、梅雨前線はなかなか北上せず、本州の南の海上に停滞する日が多くなっています。平年よりも早く梅雨入りした奄美では、まだ梅雨明けしていません。今年の奄美の梅雨は、1951年の統計史上最も長く、また梅雨明けも記録的に遅くなりそうです。

### 今年の梅雨前線 九州南部に停滞しやすい

梅雨入り・梅雨明け予想		7月5日 発表			
		5月	6月	7月	8月
東北北部	凡例 (1977年5月1日～2006年5月1日平均)		6/12頃	7/27頃	
東北南部	2010年		6/16 梅雨入り	coming soon...	
北陸			6/10頃	7/23頃	
関東甲信			6/14 梅雨入り	coming soon...	
東海			6/10頃	7/22頃	
近畿			6/13 梅雨入り	coming soon...	
中国			6/8頃	7/20頃	
四国			6/14 梅雨入り	coming soon...	
九州北部			6/8頃	7/20頃	
九州南部			6/13 梅雨入り	coming soon...	
奄美		5/10頃	6/28頃	7月中旬予想	
沖縄		5/8頃	6/23頃		
		5/6 梅雨入り	6/19 梅雨明け		

奄美は、沖縄とともに平年より早い5月6日に梅雨入りしました。沖縄では6月19日に梅雨明けしたものの、奄美は7月上旬がもう終わろうとしている現在もまだ梅雨明けしていません。奄美の梅雨明けは、平年だと6月28日なので、かなり遅れていることがわかります。

また、今年の梅雨前線は本州の南岸（九州南部地方付近）に停滞することが多く、南からは暖かく湿った空気も流れ込みやすくなったことから、九州南部地方では大雨に見舞われる回数が増えました。

梅雨期間の降水量も、鹿児島・名瀬・沖縄では、平年より多く、全国に比べても、ダントツに多くなっています。

9日の今日も、梅雨前線上の低気圧が九州南部付近を通過した影響で、午前中を中心に、1時間に宮崎県の野尻で56.5ミリ、鹿児島県の笠利・種子島は53.5ミリなど、非常に激しい雨が降り、大雨となりました。

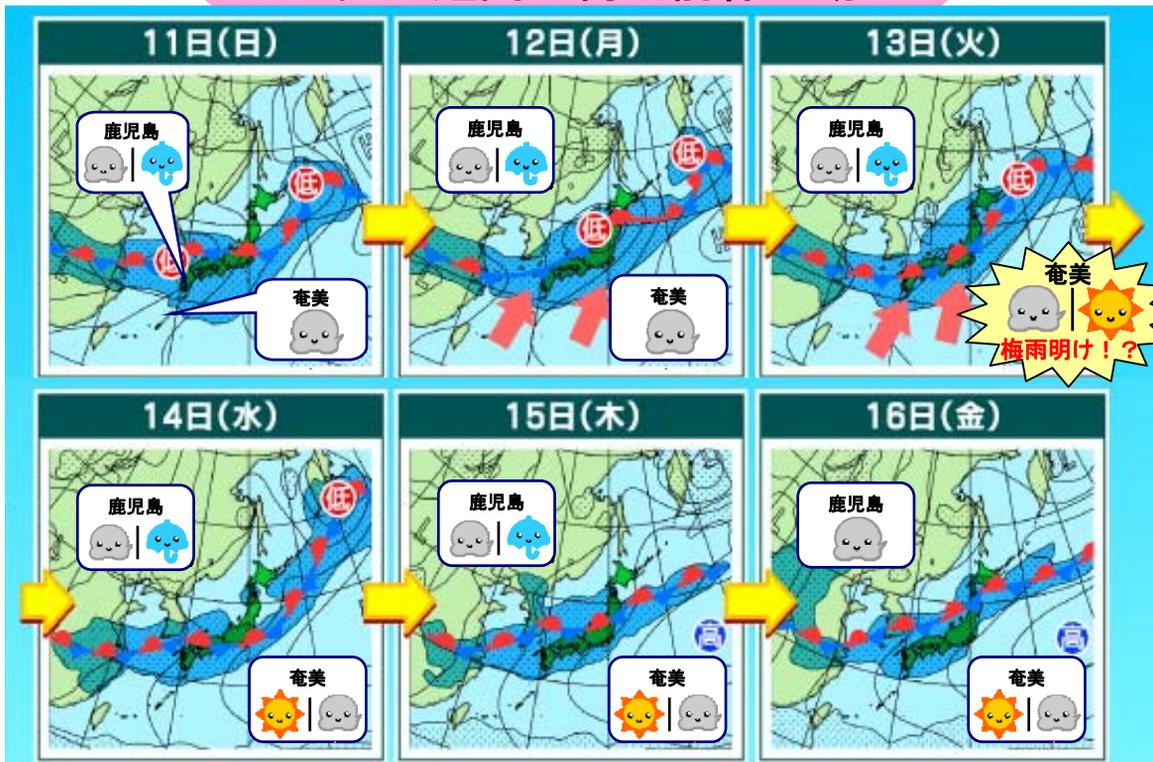
### 梅雨水瓶マップ

梅雨入りから2010年7月8日まで



# 梅雨前線北上！奄美ようやく梅雨明けへ・・・

## この先一週間の梅雨前線の動き



この先一週間の天気図と鹿児島と奄美の天気を見ても、週明けには梅雨前線が本州付近まで北上。このため、奄美ではようやく夏空が広がり、待望の梅雨明けとなりそうです。

一方、本州付近は広く雨の降る日が続き、特に、週明けは暖かく湿った空気が流れ込む影響で、西・東日本を中心に大雨のおそれがあります。

## 奄美の梅雨期間 統計史上最長！

表1 奄美の梅雨明け遅いランキング

順位	年	梅雨明け
1	1983年	7月15日
2	2010年	7月13日?
	1976年	7月13日
3	1975年	7月11日
	1982年	7月11日
4	1989年	7月10日
平年		6月28日

表2 奄美の梅雨期間長いランキング

順位	年	梅雨期間日数	梅雨入り	梅雨明け
1?	2010年	68?	5月6日	7月13日?
1	1982年	65	5月7日	7月11日
2	1962年	64	4月30日	7月3日
	1975年	64	5月8日	7月11日
3	1992年	62	5月8日	7月9日
4	1959年	61	5月7日	7月7日
平年		49	5月10日	6月28日

奄美の梅雨明けは、早くても今のところ13日。表1は1951年からの統計を始めてから梅雨明けが遅かった年のランキング、表2は梅雨の期間の日数の長いランキングです。今年の梅雨明けは歴代2位タイまたは、さらに遅くなると2位か1位と、記録的な遅さになりそうです。

また、梅雨入りが平年より早かったこともあり、梅雨の期間の日数はかなり長くなっています。7月9日現在で、今年の梅雨の期間は64日。梅雨明け予想日の13日だと、なんと68日間と、統計史上最も長い梅雨となりそうです。



## 集中豪雨が都市部を襲う

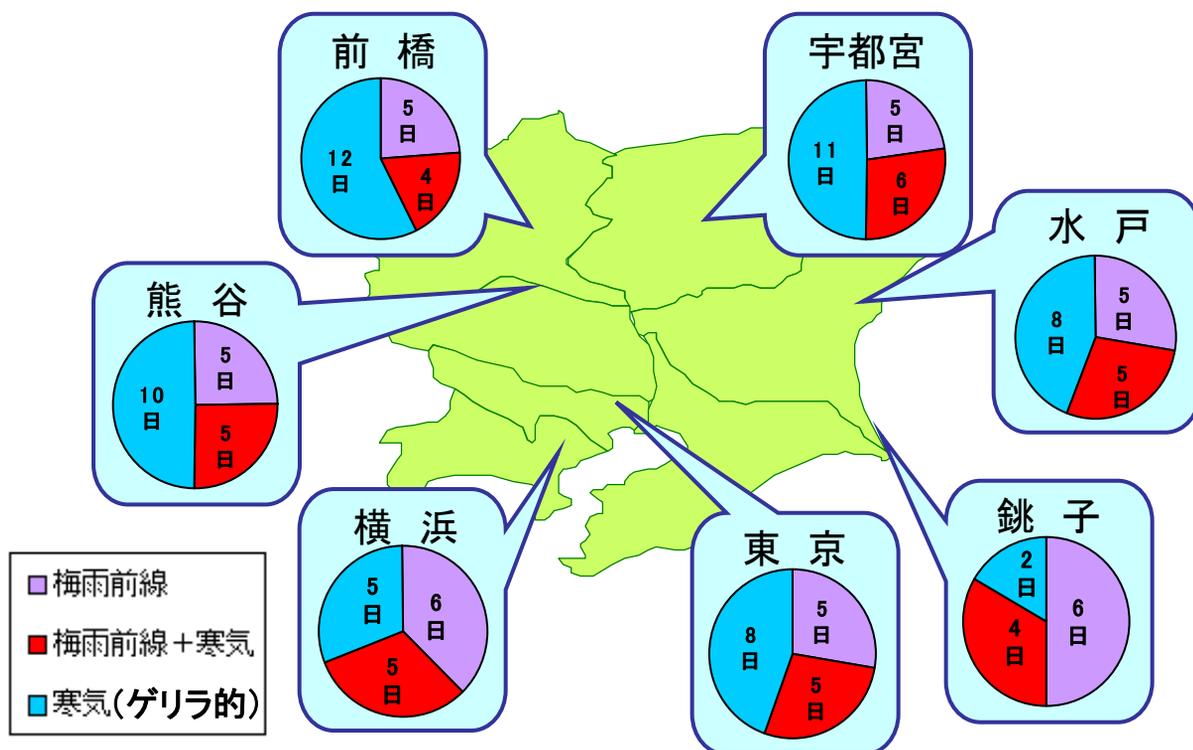


7月中旬になり、梅雨もそろそろ終盤。今年は、梅雨入り直後から九州南部を中心に集中豪雨が発生し、関東周辺でも、6月下旬以降、たびたび局地的な激しい豪雨に見舞われています。今月5日には、東京と埼玉の都県境付近で猛烈な雨が降り、道路の冠水や浸水害が発生しました。ところが、この関東で起きた集中豪雨は、九州南部で起きた集中豪雨と違って、梅雨前線の直接的な影響によるものではありません。

今回は、都市を襲う豪雨の仕組みと、今後の見通しを解説します。

## 6月末以降、関東の雨はゲリラ的！

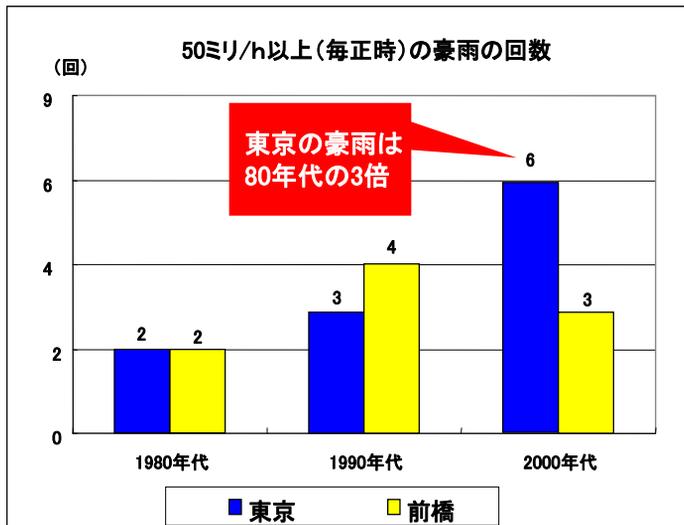
## 関東で降った雨の分類



関東で梅雨入りした6月14日から今月11日までの雨を、梅雨前線によるものと、上空の寒気によるゲリラ的なもの、梅雨前線と寒気を合わせたものに分けてみると、東京では、寒気だけによるゲリラ的な雨が8日間と、全体の約4割を占めていました。前橋や宇都宮、熊谷では、なんと半分以上。とくに6月末からは、梅雨前線というよりは、ほとんどが上空の寒気が関わっている雨でした。

このようにゲリラ的な豪雨が多い今年の関東地方ですが、一番の豪雨に見舞われたのが東京です。今月5日には板橋区で、1時間に114ミリという雨を記録しました。近年は、都市部で雨が強まりやすい傾向があるようです。

# 増える東京の豪雨 都市型豪雨の要因



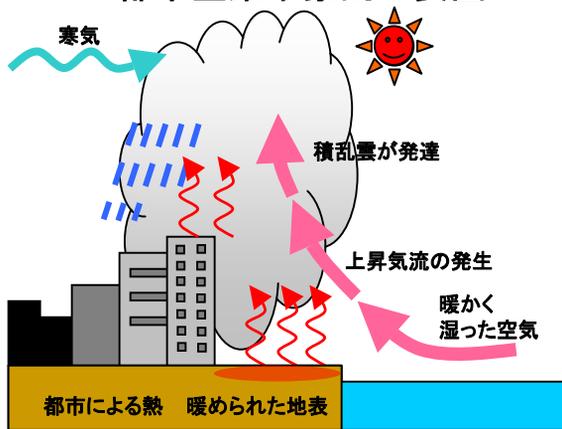
地球温暖化などの影響で、短時間の豪雨は、全国的にも近年、発生数が増加傾向にあります。

中でも、東京都心ではその増加傾向が顕著になっています。

1時間に50ミリ以上の激しい雨の降った回数(毎正時)を、東京と前橋で比較してみると、東京では1980年代の2回に対し、2000年代は6回と3倍も増えていて、前橋よりも増加しているのが分かります。

上空の寒気など、気象的な要因に加え、都市化が、より強い豪雨を引き起こす一因となっているようです。

## 都市型集中豪雨の要因



豪雨をもたらす積乱雲は、上昇気流が強まるところで、発達します。低気圧、前線の近くや、風と風がぶつかる場所、風が山にぶつかる場所。また、日差しで地面が熱せられて地表付近の気温が上がった所に、上空の寒気が入ったりすると、上昇気流が強まります。

都市部はアスファルトやビルに覆われているため地方より暑くなりやすく、また、風が高層ビル群にさえぎられて上空へ向かいます。これにより、強い上昇気流が発生しやすくなっていると考えられます。

## 8月も不安定な天気！？

8月は、高気圧の縁をまわって、本州付近に南から暖かく湿った空気が流れ込みやすくなりそうです。このため、太平洋側を中心に、安定した夏空はあまり期待できず、にわか雨や雷雨の起こりやすい不順な天気。また、上空の寒気の影響を受けることもあり、梅雨が明けたあとも、突発的な集中豪雨のおそれがあります。

今年の夏のレジャーは、危険と隣り合わせ。こまめな気象情報のチェックと、素早い判断が危険を遠ざける最善策かもしれません。



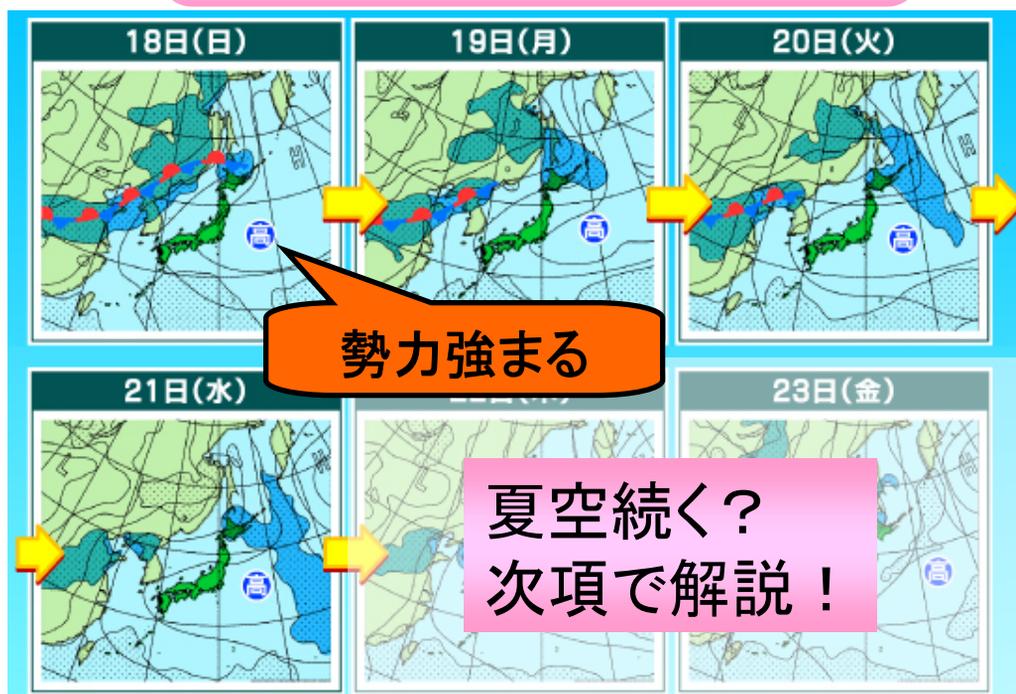
## 梅雨明け直前号発表



15日は奄美地方で梅雨明けの発表があり、統計史上1位タイに遅い記録となりましたが、三連休は九州南部から東北北部までの各地で、平年並か平年より早く、梅雨明けの発表がありそうです。今回の梅雨明け直前号では、梅雨明けが予想される向こう一週間の天気や、今後の見通し、第一回発表の予想との相違点を解説します。

## 各地、間もなく梅雨明け！

## この先の梅雨前線の動き



地域	梅雨明け予想日	平年比
東北北部	7月19日	早い
東北南部	7月19日	早い
北陸	7月18日	早い
関東甲信	7月18日	早い
東海	7月18日	早い
近畿	7月18日	並
中国	7月18日	並
四国	7月18日	並
九州北部	7月18日	並
九州南部	7月18日	並

## 太平洋高気圧いっきに強まる

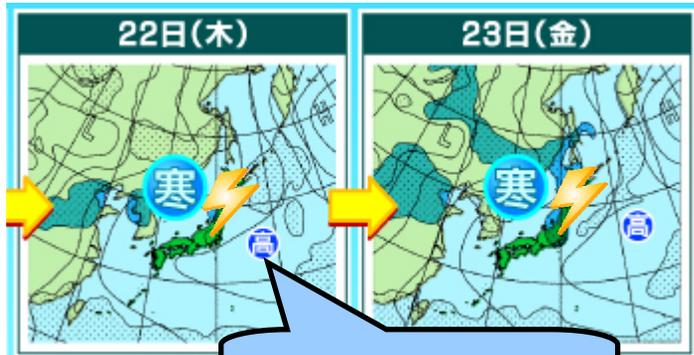
三連休は太平洋高気圧がいっきに強まって本州を覆い、梅雨前線は北へ押し上げられて弱まります。

このため、九州北部から東北北部の各地で、**梅雨明け**となりそうです。九州南部から近畿の梅雨明けは平年並、東海から東北北部は平年より早い梅雨明けになるでしょう。

各地、少なくとも21日(水)にかけて、夏空が続くと予想され、猛暑となりそうです。

# 梅雨明け10日は安定期？

## 7月4週目後半の予想天気図



勢力弱まる

## 東北は夏空続かず...

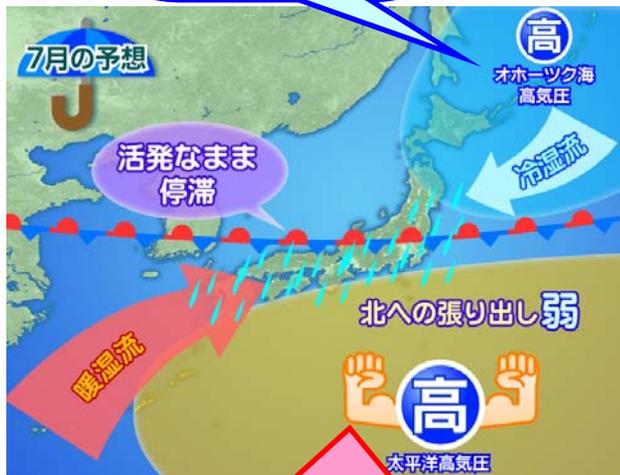
太平洋高気圧の勢力は、22日(木)頃から弱まり、上空には寒気が流れ込む見込み。

このため、東北では、再びくもりや雨となり、東日本は晴れても、にわか雨や雷雨が起こりやすくなりそうです。

太平洋高気圧の強弱には10日くらいの周期があり、「梅雨明け10日は安定した晴天が続く」と言われていますが、今年は少し早めに勢力が弱まる予想。海や山のレジャーなど、天気急変には注意が必要です。

## 予想の反省点～梅雨入り・梅雨明け～

発生せず



7月中旬から強まる

## 二つの高気圧に翻弄された梅雨

第一回発表の予想で、梅雨入りのタイミングは、ほぼ予想通りの結果でした。

一方、相違点は、梅雨明けのタイミングです。全国的に梅雨明けを平年より遅めと発表しましたが、現段階で、梅雨明けは**平年並か平年より早くなる**見込みです。

この理由としては、

- ①梅雨時期に、太平洋高気圧と競り合うはずのオホーツク海高気圧が発生しなかった
- ②太平洋高気圧の北への張り出しが7月中旬から予想以上に強まったなどが挙げられます。

7月19日分のズバリ梅雨解説は、今回発表の『梅雨明け直前号』として、繰り上げさせていただきます。なお、次回の発表は、梅雨明けが予想より早まりそうなことから、『今年の梅雨の振り返り』と題して、7月最終週に発表させていただく予定です。